



「学校教育(高等教育)」

市内には高校が2校、海上技術学校が1校あるが志願者数が少ない。高等教育機関を盛り上げないと市の活性化には繋がらないのではないかと。もっと学校と市が連携してイベントや会議などで情報発信をしてもらいたい。高等教育機関に関心を持っていただきたい。

答 高校については県教委や校長先生と定期的に情報交換をし、どうすれば地元高校に進学してくれるかや、地元高校の良さを広める方法などの話をしています。来年の入試までにと

れくらの志願者数を伸ばせるか考えています。全力を尽くして努力していきたいと思えます。情報を共有し、いち早く中学生にPRできる体制をとるように各学校に依頼したいと思いま



「地域活性化」

南島原市の人の移り変わりは寂れる方向に進んでいると思う。いろいろな知恵を出して施策をされていると思うが、上手くいっていないと思う。みんなで原

因を考える必要がある。いい知恵を出し合ってもらいたい。

答 合併当初から比べると8千500人も人口が減っており、1つの大きな町が消滅したような状況です。少子化対策や雇用対策などいろいろやっておりますが、なかなか特効薬的なものがないと思っております。職員が一丸となってプロジェクトチームを作って考えているところです。一番の課題は雇用の場の確保であると考えています。現時点では地道なことを積み重ねてやっていかなければならないと考えています。皆様のお知恵もお借りしたいと思っておりますので、よろしく願います。

「自治会活動交付金」

今年から自治会活動補助金から自治会活動交付金という名称になり、自治会長・納税組合長に何の説明

もなく算定方法が変わった。

それに対する批判があった。自治会活動交付金の説明を。

答 自治会長・納税組合長会議では制度の説明をし、その後、詳細について文書で説明をしました。金額が昨年度と比較して上下する場合に、上下5,000円以上の差があった場合は下がっても上がっても5,000円までの交付金であることを説明しました。上がる自治会は早く元の金額に戻してほしいとの声がありましたので、その件については今後検討させていただきます。

そのほかにも、さまざまな意見や提案がありました。

- 道路整備
- 水道
- 空き家対策
- 災害対策
- 流木対策
- 水路
- 職員の育成
- 健康福祉まつり
- 河川
- 移住、定住
- 有馬干拓
- 職員の対応
- 公共施設管理
- 交通、防犯
- 農道
- 納税
- 食品衛生
- 社会教育
- 契約
- イノシシ対策
- 有馬商業跡地
- バス停

詳細は、市のホームページに掲載していますので、そちらもご覧ください。

南島原市 市政懇談会

「交通・防犯(防犯灯)」

防犯灯を申請したが却下された。旧町時代は10%完成していた。予算の組み方はどうなっているのか。市になって2灯までしか申請できないとなっ

答 防犯灯の設置補助金は、市で毎年200万円の予算を組んで対応しています。市民の皆さんの要望に早期に答えることが市の大きな仕事であると考えています。設置希望の場所には、早期に設置しなければいけないと思っております。補正予算を組んで早期に対応するように指示をしています。



農林漁業体験民泊で まちをもっともって元気に!



南島原ひまわり観光協会
キャラクターひまわり四郎くん

南島原ひまわり村の皆さんでボランティア活動

民泊の受入家庭で組織されている南島原ひまわり村の皆さんが、9月3日にありえコレジヨホール、8日に南有馬体育館、南有馬武道館、29日に布津世紀の泉の会場内の清掃や窓拭き、周辺のゴミ拾いや草取りなど、ボランティアでの清掃活動を行いました。

ひまわり村の楠田村長は「日ごろから地域の皆さんのご理解のもと公共施設を利用させてもらい、民泊の受け入れができています。このことに感謝しながら今後も民泊を続けていきたいと思っていますので、引き続き地域の皆さんにはご理解とご協力いただければ嬉しいです。」と話されていました。



秋にも修学旅行生が全国からやってきます!



民泊事業は平成21年度から取り組みをはじめ、平成27年度には12,000人を超えるお客さんに利用していただきました。

昨年は熊本地震の影響により利用者は大幅に減少しましたが、今年度からまた少しずつ南島原の民泊に足を運んでいただいています。春の修学旅行では関西方面を中心に32校約5,800人、そして10月から2月にかけて関東・中部・沖縄地方から12校約3,000人の中高生が南島原へやってきます。皆さんの周辺で見かけることがありましたら、あいさつや声かけなど皆さんにできる「おもてなし」でお迎えしましょう。

南島原ファンづくりをしませんか?

現在、市内には170軒を超える受入家庭がありますが、もっと南島原ファンを増やすためには、受入家庭がまだ不足しています。あなたのご家庭でも民泊を始めてみませんか?

興味のある人はお気軽にご相談ください。

☎ 商工観光課 73-6632 または(一社)南島原ひまわり観光協会 ☎ 65-6333

